

随して「歩行中禁煙」の表示を行う。また、保護者を含んだ全ての喫煙者に対して、「子どもは歩く禁煙マーク」であることの認識を持たせ、子どものそばでの喫煙が許されない行為であるという自覚を促す。

「子どもをタバコの害から守る」シンボルマーク作成

「子どものための無煙社会推進宣言」に引き続き合同委員会独自の活動として、禁煙シンボルマークを作成しました(図3)。

受動喫煙防止という考え方については、2003年5月に施行された健康増進法第25条の規定により、少しずつ定着し始めていますが、家族や居合わせた人が、子どもの周囲で喫煙している姿を見かけることはまれではありません。「子どもの周囲は禁煙に！」があたり前のことになること、象徴的にいえば「子どもは歩く禁煙マーク！」であることを、すべての人びとに理解してもらうためには、そのシンボルマークが必要ではないかと考えました。

小児科および小児保健関係の機関誌や出版物やパンフレットにこのマークを掲示することにより、子どもを受動喫煙から守る社会の形成に少しでも役立たせたいと考えています。

シンボルマークとしては、「子どもの周囲は禁煙に！」あるいは「子どもは歩く禁煙マーク！」の標語を付けたもの、マークだけのもの、

マークに日本小児科学会、日本小児保健協会、日本小児科医会の3団体名を付したものを用意しました。以下に、ホームページのアドレスを載せますので、場面に応じ使い分けて下さい。

- ・「子どもをタバコの害から守る」シンボルマークのダウンロード (<http://jcpcth.umin.jp/nsmkmark/index.html>)
- ・「子どもをタバコの害から守る」

シンボルマーク(使用目的、著作権など) (<http://jcpcth.umin.jp/nsmkmark/caution.htm>)

・ガイドラインのダウンロード(PDF) (<http://jcpcth.umin.jp/nsmkmark/images/KTM07GuidInsforWEB.pdf>)

最近では禁煙の場所が増え、「喫煙室」などが公共施設や交通機関に設置されていますが、そこへ子どもをつれて入室し、喫煙している親もいます。結果として子どもは高濃度の

表2 アクションプラン(行動計画)

- ・診察室で
 - 問診票に「同居人」「周囲の大人」の喫煙の有無
 - 喫煙者がいれば禁煙支援
 - 未成年喫煙者の禁煙支援(卒煙外来)
- ・地域で
 - 学校医・かかりつけ医として保育・教育機関の敷地内禁煙促進
 - 学校医などとしての喫煙防止教育(防煙教育)
 - 地域の医師会の禁煙活動促進
 - 自施設も含め周囲の医療機関の敷地内禁煙の促進
 - 乳幼児健診での禁煙支援
 - 地域の公共施設(飲食店含む)の敷地内禁煙促進
 - スクールゾーンからのタバコ自動販売機撤去
 - 地域の禁煙外来ネットワーク
 - 受動喫煙モニタリング(濾紙尿中コチニン測定)
- ・国(地方自治体・社会)レベルで
 - 小児科関連学会の禁煙活動促進…「無煙社会推進宣言」への賛同
 - タバコの害に関するエビデンス(科学的根拠)をつくる
 - タバコの害(能動・受動喫煙)について社会全体への普及・啓発
 - 母子健康手帳での禁煙支援関連情報の充実
 - 「健康日本21」「健やか親子21」関連団体の「無煙社会推進宣言」への賛同
 - 受動喫煙防止条例などの強化(罰則規定など)
 - 公共交通機関の禁煙化の促進(JRのプラットフォーム禁煙など)
 - 遊園地など子どもの利用するレジャー施設の禁煙化促進
- ・国際協力
 - 未成年者のニコチン依存症の診断基準・治療指針策定
 - 開発途上国での受動喫煙防止活動促進

受動喫煙を受けることとなります。それを防止するためにも喫煙室には、このマークとともに「未成年者入室禁止」、「子どもをつれて入らないでください」の表示も義務付けるような社会の動きになるように関係者のご協力をお願いします。

おわりに

これまでご紹介してきた以外にも、日本外来小児科学会のタバコ問題検討会 (<http://homepage1.nifty.com/tobikko/tobacco-free.index.htm>) などの活動が行なわれています。さらには合同委員会では、すべての小児科医、小児保健医療関係者がそれ

ぞれの立場で、少しずつでも活動ができるような「アクションプラン(行動計画)」(表2)を作成中です。

完成後は日本小児科学会、日本小児保健協会、日本小児科医会各団体のホームページなどに掲載される予定ですので、読者の皆様それぞれのもち場で行動される際の参考にして下さい。



- 発行：エイデル研究所
- 定価：1,714円＋税
- 著者：高塚人志
- サイズ：B5判、160ページ
- 内容：核家族化が進む現代。さらに少子化により、赤ちゃんに触れたことのない子どもたちが増えています。そんな中、赤ちゃんに触れ合うことで人とのかわりを学ぼうとする試

編集部へ届いた本

「赤ちゃん力 人との関わりが人を育む」

みが各地の小学校や子育て支援団体で行なわれました。本書はその活動「赤ちゃん登校日」の実践授業の内容をまとめたものです。子どもたちの笑顔がいっぱい、子どもたちの生の声がいっぱい。赤ちゃんの力をつくづく感じる一冊となっています。

